

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

薬剤性腎障害診療ガイドライン 2016

厚生労働省科学研究費補助金平成 27 年度日本医療開発機構腎疾患実用化研究事業「慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発」薬剤性腎障害の診療ガイドライン作成委員会（委員長：山縣邦弘 筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学）
日本腎臓学会誌 第 58 巻 第 4 号、2016 年発行

■1 甘草

疾患：

薬剤性腎障害（副作用）

副作用に関する記載ないしその要約：

薬剤性腎障害原因薬物一覧表の中に、偽アルドステロン症として『甘草、グリチルリチン酸、グリチロン錠、強カネオミノファーゲン C』の記載がある。